

### 1. 本園の教育・保育目標

- ・ 阿弥陀様を拝み、ありがとうと素直に言えるこども
- ・ 人の話をよく聞き、自分で考え行動するこども
- ・ 心身ともに健康で元気に遊ぶこども

### 2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

こども園として2年目を迎え、子ども達、教職員も新園舎の環境に慣れ、乳児クラスの園生活も落ち着いてきた。それぞれに見通しをもって保育の立案計画をしている。

子どもたちがより主体的に遊びをみつけ楽しんでいく中で、保育者の気づきや環境の再構成の工夫が大切である。子どもの育ちを探る保育実践、園内研修に取り組んでいく。

### 3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	評価	取組み状況
教育・保育目標にむけて具体的な内容や取組みについて考える	A	広場を囲む園舎は異年齢の動きが見える環境にあり、幼児・乳児の交流が毎日の園生活の中で自然と行われている。互いの関わり合いを深め、言葉や動きで対話する、丁寧に向き合う保育者の関りなどを通して、コミュニケーション力やおもいやりの気持ちが育ってきている。
教育・保育の質向上や同僚性を高めることを目的とした園内研修を充実させる。	A	遊びや活動をウェブ図で表す研修2年目である。子どもたちの興味関心や遊び込む姿を、保育の関りの中で深く観察しながら子ども理解に努めてきた。またエピソード記述や写真によるドキュメンテーションを作成し、活発な意見交換が行われた。子どもたちの思いを共有し、主体的に遊び込む環境のあり方について研鑽を積んだ。幼児期に育つ10の姿も実践の中に表れていた。園内研修のあり方や研修時間調整について、保護者の皆様のご協力が得ながら、より円滑に進める工夫を考えていきたい。
園生活をより良くするための環境について職務分担の中で計画立案実践の体制を整えていく。	B	安全教育では、毎月実施の避難訓練計画の中で、近隣地への避難経路の確認・実践を行い、マニュアルの見直しに取り組んだ。食物アレルギー研修や嘔吐処理等実技研修の中で防止対策に沿って対応を進めている。インクルーシブ保育については、保護者と支援センターとのつながりを密にしながら、個別計画立案・実践・振り返りを行った。多様な個性を尊重し、必要な支援を提供すること等次年度への引き継ぎも行っている。

(A:十分成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった )

### 4. 今後取り組む課題

課題	具体的な取組み方法
ICTシステムの活用	登降園管理、メール配信、連絡帳などICTシステムでの運用が定着してきている。今後クラスの様子、学年のドキュメンテーション等も配信で活用していく。
指導計画の実践と振り返り	ひと・もの・こととの対話を大切にし、遊びや活動の工夫、環境の再構築などに取り組む。園内研修を通して同僚性を高め、保護者間のコミュニケーションについても考えていきたい。